

# 曾於文藝

うたごよみ

題字

末吉文化協会会員  
瀬戸口 淳民氏

## 俳句

### 大陽俳句会

せせらぎの岸辺に未だ小さき芹

福村 よう子

蒼天へ向かひふつくら早木の芽

岩重 みどり

会話なき日はひとしおの寒さかな

鍋山 美智子

## 短歌

### 末吉短歌会

ご都合で胸元にすがる我が「クロ」は

元日知るや欠伸あくびが一つ

大森 巳喜生

大根を輪切りにするか拍子木か

迷ふ時間の成り行きが好き

泊 康

「火事です」と誤作動をする感知器に

慌てふためく年明け初日

清末 悦子

### 大陽短歌会

犬楠の山宮神社に楠のお守りを

買う四人の吾子に

川辺 敦子

柿の木に雀は群れて声高し

電柱に止まる一羽の鴉

北村 弘子

脳内に溜め込まれいしモヤモヤを

大腸ファイバーすとんと流す

西山 美代子

### 曾於やごろう短歌会

月に行き地球を眺むその時は

何色してるまだ青いかな

松ノ下 いずみ

飛び立ちし鳩の羽毛かゆったりと

滞空時間使い切りたり

外前田 孝

### 財部短歌会

風あれば竹林のこゑおのずから

大きくなりて今宵満月

井上 澄子

たくさんの縁ある人に見守られ  
過ぎてきた年迎えうる年

坂元 淳子

吾の里も新しき年の始まりに  
山河草木ひかり溢れて

脇丸 洋子

## 薩摩狂句

### にがごい会末吉支部

年令としの数ひこ 豆まめを喰くた婆ばは

下痢はくだし

桐野 奈世

足あしは杖つえ 心の杖つえは

優よな女房か

西留 辰子

冬ふゆいゴーヤ 茶飲ちやのんの塩気しおけ

狂句きやうくをひねつ

胡摩こまケ野 べぶまつ

老夫婦おんじよんぼ 言ゆたの言ゆわんの

膨れ餅ふくらもち

高瀬 博多夜舟

老齡友達じさまだし 身体元氣ごてさかしうちや

温泉旅行ゆふねたつ

浜田 一好